



発行責任者: 池田直樹(日本高齢者虐待防止学会理事長)
編集責任者: 高崎絹子(日本高齢者虐待防止学会理事)

学会創立10周年記念誌、故多々良紀夫前理事長追悼集の発刊によせて	
追悼集の発刊によせて	1
第10回愛媛大会の案内(最終)	2~3
記念誌編集委員会より募金のお願いについて	4
編集委員会からのメッセージ	5
会員の活動~研究助成金の調査報告(概要)	6
~高齢者ケアと災害③~	7
事務局だより~新学会事務センターの決定~	8

学会HPアドレス: <http://www.japea.jp>

平成25(2013)年8月発行

学会創立10周年記念誌、故多々良紀夫前理事長追悼集の発刊によせて

日本高齢者虐待防止学会理事長 池田 直樹

日本高齢者虐待防止学会は、日本大学(国際会議場)において学会設立記念国際シンポジウムが開催された2003(平成15)年8月をもって発足の日と定めていますが、本年で10周年を迎えました。すでに、学会員の皆様のお手元には「創立10周年記念誌」が届いていることと思います。

創立当時、高齢者虐待防止に対する取り組みが急務であるとの認識で、医療・看護分野、社会福祉・介護分野、法律分野、行政分野の実践者や教育・研究者の熱い思いで立ち上げられました。本学会は多領域にわたる学際的な学会であることが特徴ですが、高齢者虐待の実態を広く社会に周知し、実践で直面している様々な高齢者虐待事例への対応、あるいは虐待予防に向けた現実的な問題解決も必要です。その目的を達成するためには高齢者虐待防止法の制定が急務であると考え、初代理事長の田中荘司先生をはじめ理事会関係者の熱心な活動や働きかけや南野知恵子前参議院議員他のご尽力によって、学会発足2年後の2005年11月に、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が成立しました。高齢者虐待防止に特化した法律としては世界で2番目です。現在、本学会の会員数は400名に迫っていますが、高齢者虐待防止に関連する多くの分野の研究者と現場担当者、法律家等が集い、互いにその専門性と知見を共有し、現場にフィードバックし、虐待防止活動をステップアップさせてきました。また、学会誌や学術大会では、多様な研究や実践活動が報告されてきました。「高齢者に対する虐待は見逃されてはならない。虐待防止のために、私たちにできることは直ぐにでも取り組まなければ・・・」という各発表者の切実な思いを感じます。当学会がその思いの受け皿になり得ていることを誇りに思います。

なお、創立10周年記念誌と同時に、2013年4月23日にご逝去された前理事長長の故多々良紀夫先生の追悼集も発刊させて頂きました。残された者の悲しみと戸惑いは言うまでもありません。今後、故多々良先生の思いを受け継ぎ、実践と研究活動を推進していくことによって、日本における高齢者虐待防止の取り組みが社会全体として定着していく道筋をつけることが学会の使命であると考えています。

最後になりましたが、ご承知のように当学会は小規模な学会であるため財政的基盤は脆弱であり、10周年記念誌と追悼集を単年度の支出で賄うことに困難が生じております。そこで皆様からのご寄付を募らせて頂くこととなりました。どうぞ、今後の学会の発展のためにもご協力の程を心からお願い申し上げます。



第10回日本高齢者虐待防止学会愛媛大会は 平成25年9月21日に開催されます

日本高齢者虐待防止学会愛媛大会へのご参加を

大会長 山本 克司(聖カタリナ大学教授)

日本高齢者虐待防止学会会員の皆様、第10回日本高齢者虐待防止学会愛媛大会長を拝命いたしました、聖カタリナ大学の山本克司です。開催の日が間近になり、すでに会員のお手元には大会プログラムが届いていると思いますが、ニューズレター通巻13号でも、愛媛大会について最後のご案内をさせていただきます。

先ず日程ですが、平成25年9月21日(土)に松山市の隣町松前町の松前総合センターをメイン会場として開催いたします。なお、前日の20日(金)には、理事会との合同企画で「高齢者虐待と共依存」をテーマに、松下年子先生(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻)を講師にお招きして、市民フォーラムを開催します。場所は、愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール(住所:松山市文京町3番)です。

さて、第10回愛媛大会には大きく三つの特色があります。第一は、この大会は学会創立10周年野記念大会であるということです。学会の諸先輩の先生方が築いてこられたご功績を礎にして、新たな発展を目指す船出の大会にしたいと思います。第二は、本学会の意義を広く地方にも広める目的で、四国での初めての大会として愛媛県で開催されるということです。第三は、今までの大会の成果を踏襲した内容の他に、故多々良紀夫先生の生前ご意向である「人権の理解と尊重」を意識した内容を加味しているということです。

学術大会で新たな英気を養った翌日には、NHK大河ドラマ「坂の上の雲」ゆかりの地や、温泉情緒豊かな道後を散策するもよし、松山城を散策するのもよろしいかと存じます。是非、ご家族、ご夫婦、ご友人と一緒に愛媛松山、松前にお出かけ下さい。松前町や松山市の関係者、運営委員会一同心よりお待ちしております。

<第10回日本高齢者虐待防止学会愛媛大会プログラム>

メインテーマ : 「人権の調和」 ～一人ひとりの幸せをみつめて～

日 時 : 平成 25 年 9 月 21 日 (土) 8 : 30 (受付開始) 9 : 30～17 : 15

会 場 : 松前総合文化センター (松山市近郊) 他
(プログラム)

9 : 30～9 : 45 開会の挨拶 ○ 白石勝也 松前町長

○ 池田直樹 日本高齢者虐待防止学会理事長

9 : 45～10 : 35 大会長講演 「人権の調和」 ～一人ひとりの幸せを見つめて～

山本 克司 (聖カタリナ大学)

10 : 45～12 : 05 シンポジウム I 「垣根を超えよう！」

座長 山本 克司 (聖カタリナ大学)

<シンポジスト> 【看護の立場から】 岸 恵美子 (帝京大学)

【法律の立場から】 滝沢 香 (東京法律事務所)

【医療の立場から】 日比 知栄子 (とまと薬局)

【福祉の立場から】 山口 光治 (淑徳大学)

12 : 05～13 : 20 昼食

12 : 35～13 : 05 学会総会 (松前総合文化センター1階 ホール)

13：20～14：20 教育講演「高齢者虐待防止法解説」

池田 直樹 日本高齢者虐待防止学会理事長（大阪アドボカシー法律事務所）

13：20～14：20 分科会（会場：松前総合文化センター、松前町総合福祉センター）

① 施設虐待：鼎談 ○柴尾 慶次（ワイレ南海施設長） ○和田 忠志（いらはら診療所）
○三好 明夫（京都ノートルダム女子大学）

② 多分野連携 ○木原 道雄（司法書士） ○今村 高博（相談支援専門員）
○井上 俊（社会福祉士） ○榎谷 礼路（管理者兼相談支援専門員）

③ 認知症高齢者への対応

○谷向 知（愛媛大学医学系研究科） ○森 保道（森・石光法律事務所）

14：35～15：35 一般報告（口頭発表）

14：35～15：30 示説（ポスター発表）

14：35～15：30 相談会

14：35～15：30 法制度部会

15：45～17：05 シンポジウムⅡ「地方発 仕組みづくり」

座長 和田 忠志（いらはら診療所）

オブザーバー 野志 克仁（松山市長）

<シンポジスト>

【行政の取り組み】

前神 有里（愛媛県職員）

【中核地域生活支援センターの取り組み】

池口 紀夫（夷隅ひなた）

【権利擁護ネットワークの取り組み】

竹内 俊一（岡山高齢者・障害者支援ネットワーク）

【地域包括支援センターの取り組み】

畑中 真理（松前町地域包括支援センター）

17：05～17：15 次期大会長挨拶 閉会の辞

17：40～19：00 懇親会

参加費

* 当日の参加も可能です。

会員	非会員	学生	シニア	懇親会費
5,000 円	5,500 円	2,000 円	1,000 円	3,000 円

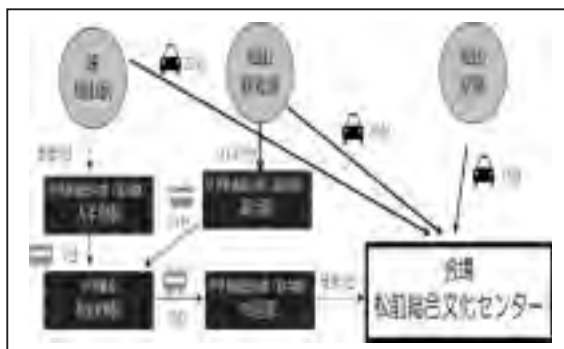
宿泊先・交通チケットの手配：各自で手配していただきますようお願い致します。

アクセス：○羽田空港→松山空港 約1時間30分 ○伊丹空港→松山空港 約50分

○松山空港よりタクシーで約10～15分

○JR松山駅から伊予鉄道郊外線を乗り継ぎ松前駅下車約17分（松前駅より徒歩約5分）

○松山自動車道 伊予ICから車で約10分



<連絡先> 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻内事務局

TEL:089-960-5419 FAX:089-960-5423 E-mail:ehime-10@m.ehime-u.ac.jp

～理事会・委員会より～

<学会創立 10 周年記念誌・故多々良先生追悼集編集委員会>

ー編集の経過と募金のお願いについてー

創立 10 周年記念誌・追悼集編集委員長 塚田 典子(日本大学大学院教授)

日本高齢者虐待防止学会創立 10 周年を心から喜んでおります。

この度私は理事会の決定により、『日本高齢者虐待防止学会創立 10 周年記念誌』および『前理事長多々良紀夫先生追悼集』の編集作業に携わらせていただきました。当初の計画より遅れたものの、7 月末に校了にこぎつけました。皆様のお手元に届いたかと思いますが、お手にとってご覧いただけましたでしょうか。

創立 10 周年記念誌編集作業の過程で、私自身多くの学びがありました。最初は学会設立に向けて、そして学会設立後は、高齢者虐待防止法の制定に向けて、志を同じくする様々な分野の先生方が、熱い思いによるスクラムを組んで、手探りながらも決してあきらめずに、一つ、また一つと目標達成に尽力されたご様子が、寄せられた原稿からひしひしと伝わって参りました。そのような中で編集作業を進めるうちに、学会員はもちろん、これから新規に学会員になられる方にも、学会創立 10 年間のこの鼓動をできるだけリアルにお伝えしたいと思うようになりました。とは申しまして、なにせ 10 年以上も前のことですから、データの保存環境も含め、容易なことではありませんでした。しかし、第 2・3 代理事長を務められた高崎絹子先生や学会役員の先生方に、押入れをひっくり返して資料を探していただきました。お蔭様で充実した記念誌が出来上がりました。また、前理事長多々良紀夫先生の追悼集の方は、日本のみならず多々良先生がご活躍されたアメリカでのお姿も追悼集に刻みたいと追悼原稿を集めました。そうした結果として、当初の予算をオーバーしてしまいましたが、これも編集長はじめ関係者の方々の熱意の表れと受け止めていただき、寛恕の程をお願い申し上げます。

つきましては、巻頭言で池田理事長もお願いしておられますように、学会員、及び本学会の活動にご関心をお持ちの皆様に、ご無理のない範囲で是非ともご寄付をご検討いただきたく、重ねてお願い申し上げる次第です。なお、お寄せいただいた募金は①記念誌・追悼集出版の資金の一部に、また余剰金があった場合には、②学会の更なる活動展開・充実のために使用させていただきます。

どうか皆様、寛大なお心をおもち下さり、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

★ お手数ですが、同封いたしました郵便局の払込取扱票に必要事項をご記入の上、郵便局でのお振込みをお願い申し上げます。なお、郵便局にある振込用紙でも送金することができます。

★ ご寄付申し込みの期限は一応 9 月 10 日となっておりますが、2013 年 12 月末日までお申し込みいただけます。

その場合も「創立 10 周年記念ご寄付」として登録させていただきます。

(郵便振替口座)
口座名：日本高齢者虐待防止学会
記号：00130-5-664283

※他銀行から振込をする場合、以下の口座番号に振り込んで下さい
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）
口座番号：当座 0664283

一口 1,000 円として

①理事 20 口以上

②監事・評議員・元役員 5 口以上

③学会員 1 口以上

④その他の方々 1 口以上

【お問い合わせ先】〒102-8275 東京都千代田区九段南 4 丁目 8 番 24 号

日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科 塚田典子

Tel: 03-5275-9430 (研究室) / 8277 (大学院事務課)

Fax: 03-5275-8386 (講師室) : E-mail: tsukada.noriko@nihon-u.ac.jp



<学会誌編集委員会>

ー編集委員会からのメッセージー

副編集委員長 山口 光治(淑徳大学教授)

編集委員会は、本学会の学会誌『高齢者虐待防止研究』を編集しており、今年度末にはいよいよ第10巻を発行することとなります。学会誌の発行は、会員の皆様のご投稿、査読へのご協力、依頼原稿へのご協力がなければ成り立たず、これまで発行してこられましたのは、ひとえに皆様のおかげと感謝申し上げます。いうまでもなく、本学会は、医療・看護・福祉・法律等の幅広い分野の専門職、行政機関や関係団体の方々、研究者などによって構成され、それぞれが基盤とする専門領域やアプローチ、職務の範囲などは異なりますが、高齢者や養護者、地域の人々の健康と福祉に貢献するという共通の目的を有しています。このような多様な会員が共通の目的に向けて協力しあっているのは、本学会の特色であり、強みです。そして、その強みを更に活かしながら、高齢者虐待防止に関する学際的及び実践的活動の研究や教育を発展させていくことが、私たち会員に求められます。

その研究を支援することが、私たち編集委員の重要な役目であると認識しています。そこで、特に切望しているのは、高齢者虐待防止実践の現場でご苦労されている会員の皆様からの投稿が「もう少し増えて欲しいな」ということです。「とても忙しくて論文や実践報告をまとめる余裕がない」という声が聞こえてきそうですが、ぜひその実践を言葉で説明して欲しいと思います。なぜならば、実践を外部に対して説明することは、客観的に自分の実践を振り返ることですし、理論的根拠に基づいた実践であるかを確認する機会となるからです。また、学会誌へ論文を投稿することは、沢山の学びの機会を提供します。それは、掲載に至るまで（掲載に至らない場合もありますが）に、何度となく投稿者と査読者のやり取りが行われ、その過程で多くの気づきや学びがあるのです。それは投稿者のみならず、査読者も同様です。このように会員同士が、立場の違いを超えて学びあい、高めあうことができる場を編集委員会が提供できることを大変うれしく思いますし、もっと一人でも多くの会員の皆様にチャレンジしていただきたいと考えています。現在、募集中の第10巻の投稿論文締切日は、2013年9月30日です。また、2014年も9月末を締切日として募集していく予定です。ぜひ、計画的なご執筆に取り組んでいただければと思います。今後も皆様からのご投稿と、本誌に対するご意見、ご希望を心よりお待ちしております。

第11回日本高齢者虐待防止学会横浜大会のご案内(第1報)

大会長 副田 あけみ(関東学院大学教授)

第11回日本高齢者虐待防止学会横浜大会は、「高齢者虐待と家族支援」をテーマに、2014(平成26)年7月5日(土)、横浜市金沢区にある関東学院大学横浜・八景キャンパスにおいて開催いたします。前日の7月4日(金)には、関東学院大学 KGU 関内メディアセンターにてワークショップを実施します。

(主なプログラム)

*詳細は10月中旬以降の高齢者虐待防止学会ホームページ (<http://www.japea.jp>)

7月4日(金) 14:30 ワークショップ(～16:30)(大会実行委員会・理事会企画)

(1)「認知症ケアの最前線」: ○遠藤英俊(国立長寿医療研究センター)

(2)「高齢者虐待事例への面接技術」: ○長沼葉月(首都大学東京)

7月5日(土) 10:30 特別講演:『家族の暴力』に向き合う援助職

信田さよ子(原宿カウンセリングセンター所長)

13:15 シンポジウム(～15:15):「高齢者虐待における家族支援とは?」

<シンポジスト>○堀越栄子(日本女子大学)

○松下年子(横浜市立大学)

○玉井理加(国分寺市地域包括支援センター・国分寺市福祉保健部高齢者相談室)

～会員の活動～

<2012 年度朝日新聞厚生事業団体助成金による調査報告（概要）>

－高齢者虐待の困難事例に潜む共依存問題－

松下 年子 横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻
(日本高齢者虐待防止学会 副理事長)

はじめに 一研究の経過について

報告に先だって、本研究の経過を簡単に述べたいと思います。

2012 年度の朝日新聞厚生事業団体による「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」事業より、助成金 150 万円をいただき、2012 年 10 月より「高齢者虐待における共依存問題に関する啓発プログラム」を実施しました。なお、本助成金の対象となるには、学会等がバックにあり、活動実績が十分にあること、となっています。啓発プログラムの実施にあたっては、本学会の理事長である池田直樹先生および、第 10 回愛媛大会大会長の山本克司先生、さらに大会事務局の皆様、本学会役員の小野ミツ先生、岸恵美子先生はじめ多くの先生方にご協力いただきましたことを報告するとともに心より御礼申し上げます。

さて、本プログラムの目的は、高齢者虐待の援助職者を対象に、わが国の高齢者虐待の背後にある共依存問題を見極め、アセスメントし、適切に対処する方策等について啓発していくことです。そのために研修会を開催して、講義や事例検討等のグループワークを実施しました。また、共依存問題を抱えた高齢者虐待ケースの実態と、それらについて援助職者がどのような困難を抱えているかをアンケートとインタビュー調査を通じて把握しました。最後に、それらをデータとして、高齢者虐待の共依存問題に関する小冊子を作成し関連機関に送付しました。

1) 研修会の実施とアンケート調査の結果

一連の「高齢者虐待における共依存問題」に関する研修会の回数および参加者数は、計 17 回と計 1,644 名でした。研修会終了後のアンケート調査の結果では、「共依存という言葉をはじめて知った」、「共依存のことは知っていたが高齢者虐待とこのように関連しているとは知らなかった」、「対処困難事例には共依存の問題が絡んでいる。具体的な対処策を教えてください」といったコメントが散見されました。

2) インタビュー調査の結果

計 17 名の援助職者を対象に、高齢者虐待の共依存ケースに関するインタビューを実施しました。結果、援助職者が尽力して共依存の両者を分離しても、高齢者自らが虐待者の下に戻ってしまうというエピソードの繰り返しの、援助職は困難感や疲労感を抱えて、対応に苦渋していることがわかりました。

3) 小冊子「高齢者虐待の困難事例に潜む共依存問題」の作成と発送

嗜癖や依存症が虐待事例にどのように絡んでいるかについて、事例等を加えて説明した小冊子です。これを全国市町村、都道府県庁、政令指定都市等の担当部署に 4260 部発送しました。会員の皆様には今回、本ニューズレターとともに同封させていただきました。ご参照いただけると幸いです。

今回の事業（調査）を通じて、共依存の高齢者虐待ケースに困難を感じている援助職者が多いこと、そのようなケースへの具体的対応の標準化ができないこと、ケア会議等を開催しても共依存ケースに関しては明確な指針が得られづらいこと等が示唆されました。今後も、共依存を背景とした高齢者虐待事例への挑戦は続いていくと思われますが、経験の共有と振り返り、その積み重ねがより良い支援につながっていくのではないかと考えます。

～高齢者ケアと災害③～

ー東日本大震災の陸前高田市での支援活動を通して考えるー

川井 太加子(桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授)

近い将来、大震災が起こることが予想されており、東日本大震災の経験から学ぶことは多いといえます。

筆者は震災後まもない2011年5月1日から9月10日までの約4ヶ月間、陸前高田市において滞在型ボランティアとして支援活動に従事しました。その中で見聞きしたことは、けっして被災地だけの問題ではなく、私たちケアに関わるものにとって貴重な示唆を得るものでした。その一例をご紹介します。

Sさん(男性)85歳は、避難所に入る前から介助なしでは歩けない状態でした。その内、避難所を巡回しているリハチームで毎日Sさんのリハビリをするようになり、間もなく杖を使ってトイレにも行けるようになりました。ところが、避難所から仮設住宅に移り、2週間もしないうちに風邪が引き金となり再び寝たきりの生活になってしまいました。このようにリハビリスタッフやケアスタッフによる自立に向けた取り組みでいったん歩行できるようになった方でも、転居により環境が変わったこと、支援が途絶えたことにより状態悪化につながってしまいました。これはほんの一例ですが、外から支援に入るものとして大切にしなければならないことは次のステップに繋がる支援であり、それを維持していくための仕組みづくりだということです。

もうすぐ3回目のお盆を迎えようとしています。しかし、被災地を訪問してみるとまだ定住する場所が決まっていない人が少なくありません。特に高齢者の場合、自分の居場所を見失ったことで、閉じこもりの問題も出ているようです。こうした定住する場を失った人の閉じこもりの状態を、例えばデイサービス等で補助しますが、これは平時の閉じこもり予防の話であり、定住する場を失っている人にとって、やはり居住する権利を保障することが一番で、権利擁護とは、自由の保障、住める場の保障、こうしたことを早期に保障することで何とか希望を持てるようになるのではないのでしょうか。

筆者は、約4か月間の活動の中で徐々に使用可能な道路が増え、その道なりに電柱が立ち、電線が通っていくのを目にした際に、何とも言えない感慨を覚えた事を思い出します。これは、おそらく電柱と電線が道なりに続く風景が、現代の日本人の多くが持つ原風景であり、それゆえに外部から一時的に当地で寝食する筆者の心にも生活感覚の一部を取り戻した安心感のようなものが湧いてきたのだと思います。そういう意味からも地元の被災住民の方にとって、個人の復興と共に一刻も早く町の復興が進むことが、今後を生きる力として、重要であると考えます。

最後になりましたが亡くなられた皆様、並びにその関係者の皆様には謹んで哀悼の意を表します。



介護が必要な高齢者が避難所生活をされていた学校の教室



山間部にある仮設住宅では、高齢者にとって自由も保障されない状況にあります

～事務局だより～

新しい学会事務センターが決定しました

事務局長 山田 祐子(日本大学文理学部社会福祉学科教授)

新しい学会事務センターが NPO シルバー総合研究所に決定し、2013 年 4 月より業務委託を開始しておりますので、よろしくお願い申し上げます。なお、論文投稿、その他に関しては従来通りです。

□学会事務センター（会費納入・住所変更および諸々のお問い合わせ）

NPO シルバー総合研究所内 日本高齢者虐待防止学会事務センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-9-12 J ビル 2 階

電話 03-6206-2596 FAX 03-6701-7509 E-mail info-japea@silver-soken.com

□ 会費納入先

学会事務センターの新設に伴い、会費納入のための郵便振替口座を新設しました。）

今後の会費請求は、新口座への振込依頼となります。本年度は移行期間として旧口座も使えるようにしております。年度内の口座切り替えにご協力いただけますようお願いいたします。

新口座番号 00130-5-664283 旧口座番号 00910-0-305497 (2014 年3月末まで有効)

□＜論文投稿先＞

株式会社 勁草書房 コミュニケーション事業部 梅澤桃子 宛

〒112-0005 東京都文京区水道 2-1-1

TEL 03-3814-7114 FAX 03-3814-6904 E-mail japea@keiso-comm.com

*論文の投稿の際は、封筒に「日本高齢者虐待防止学会 投稿論文在中」と朱書きしてください。

＜投稿・問い合わせ先＞

横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科松下年子研究室

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 TEL&FAX 045-787-2541

E-mail toshiko@yokohama-cu.ac.jp

□本部事務局

日本大学文理学部社会福祉学科 山田祐子研究室 日本高齢者虐待防止学会事務局

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

Tel&Fax :03-5317-8987 E-mail ryuno@chs.nihon-u.ac.jp

□学会ホームページアドレス : <http://www.japea.jp>

★…選挙管理委員会より…★

今年度は学会評議員選挙を行います。詳細は9月の総会およびホームページでお知らせします。

★…年会費納入のお願い…★

会計年度は4月～翌年3月です

正会員年会費 8,000円

賛助会員年会費 20,000円

学生会員年会費 4,000円

～編集後記～

ニューズレター通巻 13 号をお届けします。第 10 回愛媛大会が近づきましたので、最終のご案内を掲載しました。今年は学会の創立 10 周年に当たりますので、できるだけ多くの方が参加されるよう願っております。すでに、会員の方は 10 周年記念誌をご覧になっていると思いますが、創立当初から参加した一人として、今後の学会がますます発展していくことを期待しております。

(広報委員会 小野ミツ 高崎絹子)